

1 各部門の最優秀賞の講評

(1) 個人花壇の部（上級）

すべてが見応えのある美しい花壇ばかりであったが、最優秀者はピンク色を中心とした花々が一斉に咲き揃い、装飾の規模も大きく見応えがあり、春爛漫の雰囲気は他を圧倒した。花苗も種まきから育てられたものが多く、技術力の高さも感じた。

(2) 個人花壇の部（一般）

上級の部にも劣らない見事な花壇が数多くみられ、市内の個人庭園の装飾意欲の高さを感じた。最優秀者は栽培技術が高く、それぞれの鉢花が元気に美しく育てられていた。雑壇に飾られ全体の花揃えも美しかった。

近隣の住宅にも草花装飾が波及し、街中全体が美しくなっている様にも感服した。

(3) 共同花壇の部（上級）

広い花壇の中を歩けるようにレンガを使い、パーツごとに不整形な花壇を作り、その中に草丈の高低をつけながら多くの種類の草花が植栽されていた。また、花壇の中にコンテナガーデン、背面にはトレリスを配置してハンギングバスケットをかけ、立体的にも見応えがあった。

(4) 共同花壇の部（一般）

広い花壇の中を歩けるようにパーツごとに整形な花壇を作り、手前には丈の低いデージーやパンジー、奥には丈の高いチューリップやリナリアを中心に多くの種類の草花が植栽されていた。色彩的にも春らしく、黄、白、ピンク、紫色と色調がまとまっていた。

(5) 保育園・学校花壇の部

全体的に草花の生育が良く、パンジーなどが美しく咲いていた。また、前年に比べて、草取りや花がら摘みなどの手入れも前進していると感じた。

最優秀者は児童、先生、地域が一体となって、日々の手入れを行っている状況がみられ、花の生育、配色共に素晴らしかった。

2 総評

全体的に花の生育、花色も良く、見応えがあった。

特に、個人花壇の部では参加者も増え、装飾技術のレベルが高くなっている。草取りや花がら摘みについては、手入れが徹底した花壇とそうでないところと二極化していた。

共同花壇では、人手が足りずに広い花壇の管理に苦労してみえる様子もうかがえた。

学校花壇では、卒業式などで飾られた鉢花も花壇に添えられ、一層華やかさを演出していた他、熱心な担当者からの質問もあり、より美しく飾りたいという意欲も強く感じた。

令和7年（2025年）4月17日

審査員

名古屋市みどりの協会 緑の相談員 谷 澤 隆
梶 田 靖